

2026 年度 長期在外研究活動報告 No.1

— NCAA と USA Wrestling における米国レスリングの育成・強化システム —

(2026 年 4 月 1 日～7 月 31 日)

報告者：佐藤 満 (経営学部)

2026 年 4 月 1 日より、米国ペンシルベニア州ベスレヘムにある Lehigh University (リーハイ大学) を研究拠点として、長期在外研究を開始。

今回の研究テーマは「USA Wrestling と NCAA の関係性および育成・強化システムとコーチングに関する研究」。NCAA Division I に所属するリーハイ大学レスリング部と、世界選手権・オリンピックを目指す選手を支援する Lehigh Valley Wrestling RTC (LVWRTC) を中心に、大学スポーツと米国代表強化がどのようにつながっているのかを調査している。

4 月から 7 月までの約 4 か月間、日々の練習観察やコーチ・選手との交流、大学施設の調査、レスリング関係者・OB・支援者が参加する行事などを通じて、日本とは異なる米国大学スポーツの仕組みが少しずつ見えてきた。

1. 30 年ぶりのペンシルベニア、そして Lehigh へ

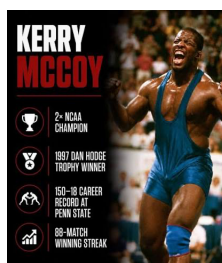
2026 年 4 月 1 日、羽田を出発時には早朝より教え子の現監督と前監督に見送られ、シカゴでの入国審査を経て、夕方に Lehigh Valley 国際空港へ到着。自宅を出発してから約 24 時間の長旅。

到着直後、空港の荷物受取所では、1995～96 年にペンシルベニア州立大学 (Penn State=ペンステート) 指導時代の教え子 John Hughes (1995NCAA 王者) と偶然再会。さらに、今回の研究を全面的に支援してくれている同じくペンステート時代の教え子 Kerry McCoy (1994・1997 年 NCAA 王者、シドニー・アテネ両五輪代表、現 LVWRTC ヘッドコーチ兼エグゼクティブディレクター) と、リーハイ大学アシスタントコーチ Vincenzo Joseph (2017・2018NCAA 王者、ペンステート出身) が空港まで迎えに来てくれた。

30 年前のペンステートレスリングを通じて築いた人とのつながりが、今回の在外研究の出発点でも大きな支えとなっている。

研究環境の整備と並行して、到着翌日からは直ちにレスリング部および RTC トレーニング拠点の現場の視察を開始した。数日後には国際学生・研究者事務局 (OISS) による入国・査証管理 (J-1 ビザ/iHome システム) のオリエンテーションを修了。

【空港での再会・出迎え】



2. 研究拠点となる Lehigh University と LVWRTC

翌4月2日から早速練習に参加。研究の中心となるのが、リーハイ大学レスリング部が本拠地とする「Grace Hall／Caruso Wrestling Complex」。「Grace Hall」は1942年建設の重厚な歴史的建造物（外観は石造りゴシック様式）であり、多目的アリーナとなっている。2013年に大規模改修が施され、最先端の専用トレーニング施設（約3万平方フィート）として生まれ変わった。

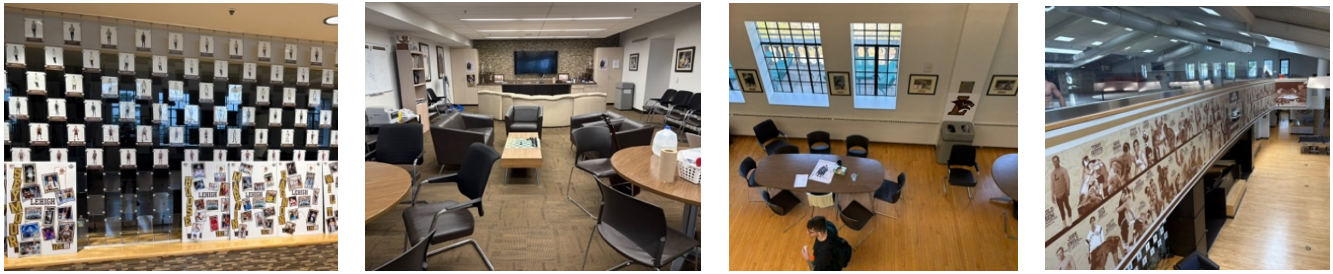
歴史ある Grace Hall の上層階にはレスリング専用施設が整備され、マットスペースだけでなく、ストレングストレーニング、スポーツ医学、映像分析、ミーティング、栄養補給、学習などを支援する環境が集約されている。特に印象的なのは、練習する場所だけではなく、競技・身体・栄養・学業・リカバリーまでを一つの環境の中で支える考え方である。

下層階は「Leeman-Turner Arena」と呼ばれ、1,788席の観客席を備えている。ここではレスリングの公式試合をはじめ、女子バレーボールの試合、コンサートや式典が開催される。約40年前（1985年）、このアリーナでW杯前に親善試合をしている。当時は約3,000人収容のアリーナだったが、親善試合にも関わらず超満員の会場は圧倒的な熱気に包まれていた。

大学スポーツを管轄する「Athletic Department/Taylor Gymnasium」は「Grace Hall／Caruso Wrestling Complex」に隣接している。

【Grace Hall／Caruso Wrestling Complex】





【Athletic Department/Taylor Gymnasium】



3. NCAA と RTC（地域トレーニングセンター）の連携モデル

今回の研究で特に注目しているのが、NCAA Division I の大学レスリングと USA Wrestling の国際競技強化をつなぐ **RTC（Regional Training Center）** の存在である。米国レスリング界が国際舞台で安定した競技力を発揮し続ける背景には、大学スポーツ（NCAA Division I）と USA Wrestling（全米協会）が公認する RTC の緊密な相乗効果がある。

リーハイ大学レスリングは NCAA の規則のもとで活動する大学競技組織である。一方、LVWRTC は大学とは別組織とした非営利組織でありながら、大学施設や指導陣を共有し、卒業生や全米トップレベルのシニア選手に通年の活動基盤を提供している。

両者は制度上は異なる組織でありながら、練習施設、人材、コーチング環境などを通して密接につながっている。大学時代の NCAA レスリングから、卒業後の世界選手権・オリンピックへの挑戦まで、競技者のキャリアを継続させる育成・強化環境が形成されていることが、現地での観察から見てきた。これは今回の在外研究における重要な調査対象の一つである。

【NCAA と RTC】



4. 競技を支える OB・家族・地域コミュニティ

4月10日開催のシーズン総括する表彰式典「**Lehigh University Wrestling Awards Celebration (Lewis Dinner)**」及び4月19日開催のLVWRTCの支援者が集まる「**Lehigh Valley Wrestling RTC チャリティオークション&ワインディナー**」に参加した。

式典やイベントには選手・コーチのみならず、保護者、卒業生（OB・OG）、地域の有力支援者が集い、世代を超えた強固なコミュニティが形成されていた。特に3大会連続全米王者であるレジェンド Mike Caruso 氏をはじめとする同窓生の大学・クラブへの帰属意識は極めて高く、ワインや記念品のオークション、各種寄付によって RTC 選手の生活費や国際遠征費が民間主導で調達されている。

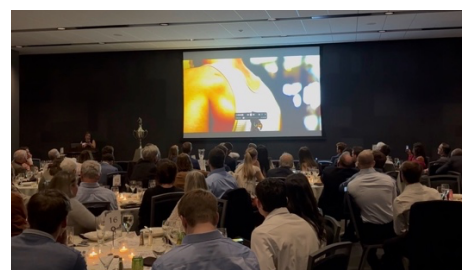
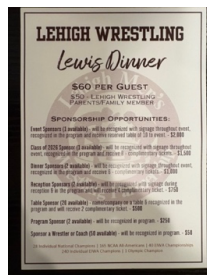
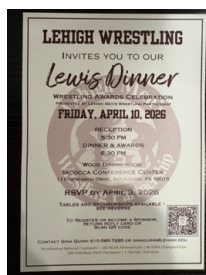
国家予算や公的補助金に依存しすぎず、大学・クラブ・地域社会が相互扶助のエコシステムを築き上げている点は、日本の大学スポーツ改革や地域移行を考える上でも極めて示唆に富む実例である。「大学スポーツを卒業後も支える文化」そのものが米国大学スポーツの重要な基盤になっていると感じる。

・研究を支える Kerry McCoy

RTC 強化やコミュニティなど、そして私の研究を支えているのが **LVWRTC Executive Director 兼 Head Coach を務める Kerry McCoy** である。最重量級でペンステート時代に NCAA 王者となり、Dan Hodge Trophy（最優秀選手賞）を受賞。その後、米国代表としてシドニー、アテネの2大会のオリンピックに出場し、2003年世界選手権では銀メダルを獲得している。私が1995～96年にPenn Stateで研修時、彼はNCAAのレッドシャツ制度を利用して大学の試合に出場せず、アトランタオリンピックを目指した。彼のサポートでトレーニングや数多くの大会に関わった。

その後、リーハイ大学、スタンフォード大学、メリーランド大学を指導し、今回は約30年を経て、彼が運営・指導するRTCを研究対象として再び一緒に活動していることに不思議な縁を感じている。

【Lehigh University Wrestling Awards Celebration／Lewis Dinner】



【Lehigh Valley Wrestling RTC チャリティオークション＆ワインディナー】



Mike Caruso 氏と現役時代の優勝写真（五輪2連覇の上武洋次郎氏、八田忠朗氏）



Kerry McCoy の自宅でペンステート時代の写真前で

5. Lehigh University のキャンパスとスポーツ文化

リーハイ大学は、ペンシルベニア州ベスレヘムに位置する 1865 年創立の私立大学である。歴史的な **Asa Packer Campus**、研究・教育施設が集まる **Mountaintop Campus**、競技施設を中心とする **Murray H. Goodman Campus** という特徴的なキャンパスを有している。

歴史的建築物と近代的な教育・研究環境、NCAA Division I のスポーツ施設、そして大学を支える強固な同窓生文化が共存していることも Lehigh の特徴である。在外研究を進める中でも、大学やスポーツへの OB・OG の強い帰属意識と支援の文化は随所に感じられ、米国大学スポーツの仕組みを理解するうえで重要な視点だと考えている。

今回の No.1 では Asa Packer Campus はリーハイ大学のメイン・キャンパスであり、レスリングの練習施設 Grace Hall はこのメイン・キャンパスに位置する。競技施設中心の Murray H. Goodman Campus については次回のレポートで紹介する予定である。

【Asa Packer Campus】



■総括と今後の研究展望

2026 年 6 月には、長年チームを率いた Pat Santoro ヘッドコーチの勇退と、Brad Dillon 新ヘッドコーチの就任が発表され、リーハイ大学レスリング部も新たな変革の節目を迎えている。

現在、NCAA では NIL (Name, Image and Likeness=知的財産・肖像権の商業化)、トランスポータル(大学間移籍市場の活性化)、House settlement に伴う収益分配や競技資格制度の改変(従来の 5 年間 4 シーズン制から、連続する 5 年間の eligibility period への移行)という大学スポーツの根幹に関わる大きな変化が進んでいる。

制度改革がレスリング選手の大学選択や育成・強化、RTC との関係、さらには USA Wrestling の国際競技力向上にどのような影響を与えているのかを公式資料の確認と現地での観察・聞き取りを重ねながら引き続き調査する。。